

たはら 2 1 新農業プラン改訂の概要

田原市では、平成 18 年度に田原市の農業の将来像を見据えて「たはら 21 新農業プラン」を策定し、これに基づき施策を推進しています。

今回の改訂では社会情勢の変化を踏まえ、策定後 5 年経過した現在のプランの達成状況の確認、施策の見直し、行動計画の策定を行い、農家、JA、行政等が一体となった農業振興の取組を明確にします。

1-1 プランの目的・主旨

「たはら 21 新農業プラン」を、「農家が考え、農家が実行し、農家のためのプラン」とすることにより、地域全体で地域農業を育て、課題に対応できる持続性のある農業地帯を形成することを目指します。

1-2 改訂版の性格

(1) 改訂に当たっての留意点

①市民と行政が未来を共有し、協働で取り組むプランとします。

改訂過程に市民や農業関係者の参加の機会を盛り込み、農業関係者の力を引き出すことができるプランとします。

②農業政策運営の指針として活用できるプランとします。

③総合計画の改定に合わせたプランの見直しを行います。

(2) 目標年次

平成 19 年度から平成 23 年度の 5 年間の評価を実施した上で、平成 28 年度を目標年次とします。

2 改訂版の方向性（田原市の農業の特性と主要課題）

「田原市の農業の特性」や「田原市の農業の問題点」、「農業を取り巻く社会情勢等の変化」を踏まえ、「農家及び農業関係機関とのヒアリング調査での意見」を加味し、本市の農業の主要課題を整理します。

3-1 基本理念

4つの基本理念を定めます。

- | | |
|-----------------|--------------------|
| ①渥美半島の農業を守る | — 「強い農業」を展開する |
| ②渥美半島の環境を愛（め）でる | — 「環境にやさしい農業」を展開する |
| ③渥美半島の農業を育てる | — 「輝く農業」を展開する |
| ④渥美半島から農業の風を起こす | — 「攻めの農業」を展開する |

3-2 将来像

基本理念を具現化したものとして、将来像を掲げます。

将来像 農を「強く」 地域を「育（はぐく）む」

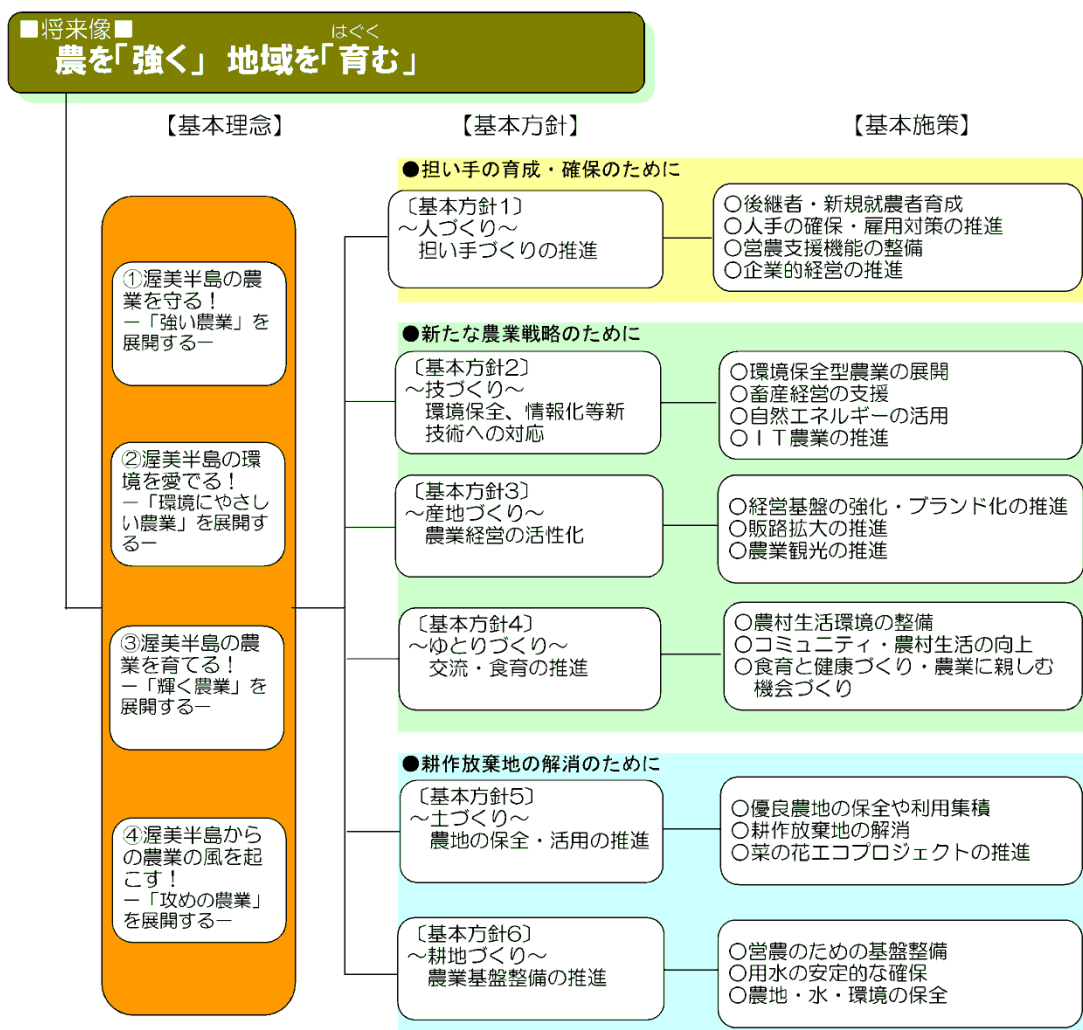
3-3 基本目標

計画期間における目標値を次のように設定します。

	当初 平成 18 年	中間値 平成 23 年	目標値 平成 28 年
農業産出額	724 億円	713 億円（推計）	800 億円
食料自給率（維持）	130%	125%（推計）	130%
耕作放棄地面積	517ha	459ha	385ha
農家 1 戸当たりの生産農業所得	588 万円	404 万円（推計）	600 万円
認定農業者数	876 人	1,179 人	1,500 人

4 基本方針・5 基本施策

基本方針は、「人づくり」「技づくり」「産地づくり」「ゆとりづくり」「土づくり」「耕地づくり」の6つを掲げます。基本施策は、将来像の実現を図るため、基本方針に従い、計画期間内に具体的に取り組む事業の内容を示すものです。基本施策は、6つの基本方針の下に20の施策を配し体系的に再整理します。



6 重点プロジェクト

重点的に取り組むプロジェクトとして「担い手の育成・確保」「新たな農業戦略」「耕作放棄地の解消」の3つを設定します。

6-1 担い手の育成・確保

- ①経営体の強化 ②育成制度の強化 ③教育・啓発活動の積極的な展開

6-2 新たな農業戦略

- ①地域ブランドの推進 ②経費削減や環境に配慮した技術の導入
 ③農商工連携・6次産業化の推進 ④海外への輸出推進

6-3 耕作放棄地の解消

- ①農地情報の共有化 ②仲介機能の強化

7 プランの推進体制

将来像—農を「強く」地域を「育（はぐく）む」—を目指すため、施策の推進体制と関係者の役割分担、及び施策の進行管理の方法を示します。また、プランの進捗状況や実効性を確認・把握するため、年度末に施策や事業の評価を行います。